



第282号  
発行所  
文通村事務局  
編集 広報部  
千葉県成田市

# 季節とともに 手紙のある日々

## 時を感じられる贅沢

久しぶりの暑い日に久

しぶりのセミの声。まだ

もう少し夏が続くのかな

と思いきや夜にはコオロ

ギの鳴き声。帰り道を歩

いているときに漂う銀杏

の香りを感じると、ちょ

うど夏の出口と秋の入り

口の間に立ったような気

持ちになります。

季節はいつも一定の早

さで移る、必ずほぼ同

じ時期に来るのに、なぜ

か秋の入り口に差しかか

ると特別懐かしさのよう

なものを感じるの不思議

議なものです。

早く涼しくならないか

と夏の暑さにうんざりし

ていたのに、涼しくなっ

てくると夏の終わりを惜

しむように慌ててかき氷

を食べてみたり、冬の寒

さが和らいでくるとこた

つの暖かさとの別れに寂

しさを感じてみたり、暑

さ寒さに文句を言いなが

らもどこか身勝手に季節

を楽しんでいるのかもし

れません。

生命力の溢れるような

夏の暑さに、暑さを和ら

げて優しく包み込んでく

れるような秋の涼しさ。

どちらも感じられる季節

の変わり目というのは実

は「季節」というものを

一番感じられる贅沢なひ

と時のような気もします。

とはいえ秋の優しさを感

じられるのもほんのひと

時。

夏の容赦ない暑さの中

ではなかなか感じる余裕

のなかった夏の良さを味

わえるのもまたしばらく

お預け。



## 私の一冊

大人になる前、読める本は限ら

れていた。買える場所にも、種類

にも限りがあった。金銭的にも限

度があった。今は家でも本が買

える。選択肢もほとんど無限に

ある。月額いくらで膨大な量

本が読めるサービスまである。読

むものに困ることはまずない。夢

のようなと思う一方、寂しい気持

あを飽きるほど読んだ後の次の一冊

は、宝物みたいに感じたのにと、

あの頃を思い出すと、昔はよかつ

取り戻せたらと思つ

たなんて思つてしまつ。でもそれ

は時代のせいだけではない。それ

に慣れてしまった自分のせいでも

ある。少なくとも、一冊を大切

にすることは、気持ち一つで今

でもできることだ。夢のよつな

時代のありがたさを感じながらも、

風にゆられて誰かに届け!

## 風船便

風船便はいつでも誰でも参加  
できますが、その受取は新規  
の方へ優先されます。  
誰に届くかは風次第...。送  
り方は簡単。下の風船便切手  
を切り取って手紙に貼り宛名  
に「風船便を受け取った方へ」  
と書いて、差出人名を書くだ  
けです。あ事務返信同  
局宛の筒にさい。な始  
用封下まで流  
封今い交  
まり



## 次回発送日

9月の次回発送日は通  
常通り30日の予定です。  
送りたいお手紙がある場  
合には、2日前の28日ま  
でに事務局に到着するこ  
とを確認の上、余裕をもつ  
てポストに投函してくだ  
さい。

## 新機能追加

マイページ上の「ふみ  
友リスト」において、3  
色で色分けができるよう  
になりました。また、文  
友リスト内のふみ友の表  
示を、現在村に在籍する  
方を表示する仕様に変更  
しました。